



スモールサンゼミ 京都通信 6 月号

2019 年 6 月 18 日
第 21 号

5 月ゼミ報告

内容報告 報告者 奥田英詔

この号の内容

1 テーマ

「今後の経済動向と中小企業経営」

2 講師

・スモールサン・エグゼクティブプロ
デューサー

立教大学名誉教授

山口 義行

3 アンケートより

今回はなし

“ゼミでの一言”

①イオンの社長は、常にメモをとっている。岡田家の家訓であり、これでいいのかと問い続ける。

②牛を殺さないで、肉を作る技術はもうできている。培養肉。今は 200g で 3200 万円。培養液がめちゃくちゃ高い・・・が、数年先には桁違いに下がる

③京都の機械加工会社ヒルトップは 1 年半で全員の部署をかえる。

◇スモールサン：中小企業の地位向上のため、テレビ番組をもっている。BS11。スポンサーはスモールサンの会員が基本。中小企業の日線で情報発信。

◇消費税について：消費者ではなく事業者が払う税。消費税を上げると、実際は税収が下がる。経団連は輸出企業中心。トヨタは消費税や法人税を払っていなかった。

◇スモールサン原則 3つの力。『読む力』『問う力』『つなぐ力』

・リーマンショックの時、スモールサン関係の会社は現金を積んでいた。時代をいかに読めるか？

・EV（電気自動車）は、部品は半分位でできる。普及すると下請けが崩壊する。組立も 3 人位で出来てしまう。発展途上国は、自前で車を作る可能性がある。2020 年からダイソンは車を作り出す。

・虎屋 500 年続く企業の姿。本社ビルをたてなおしたが、高層から、低い建物になった。時代に合ったものを作った。この姿勢が室町時代から続く

◇景気動向指数 2015 年を 100 として、今どうなのかな？という数字

・2017 年からの景気があがったのは、中国からの購入量が増えたから。中国は大国から、強国へと目指した「製造 2025」（最先端技術をもつ。半導体性を自前で作る）。日本への大量に機械を注文。前年比 2 倍。2018 年になって半分に下がった。

→アメリカが 8 月からファーウェイ製品を一切買わないという法案を通した。今後、ファーウェイと一切取引しないとという法律を通した。これに伴い、景気が悪化していることが懸念。・・・米中戦争 9～10 月にアメリカ経済が悪化してくると考えると、消費税上げる時期に危険。現在ファーウェイへは一切売り買いを禁止。1 兆円のビジネスがきえる。日本は 7000 億円位がきえる可能性がある

◇厳しい時代 経営者の仕事は壊す仕事。

・ある会社で 3 人募集で 700 人応募がきた。大半が金融機関の人だった。金融機関の人は余っている。また、高齢者、女性、障害者、外国人といった人が今後採用のポイントとなる。フジテレビ 早期退職金で 7000 万円をだした。大企業は実は、早く人を追い出したい面がある。

・大企業じゃなくて中小企業にあるもの ①経営者との距離感 ②失敗を恐れなくてもよい。減点主義ではなく「加点主義」

・障害者雇用 「なないろ」。障害者をやとうのはマーケティングという面がある。人口の 3 割が関わっている計算になる。発達障害の方も、適切な部署と職務で才能が発揮される場合がある。能力を発揮する環境をあたえることでむしろ戦力となる

・一人一人の多様な能力を活かすのが経営者。「多様性革命」。GAFA は全て発達障害者が企業を作った。日本は行き詰った時多様性で乗り越えてきた歴史がある

『スモールサンゼミ京都 秋のゴルフコンペ』

予告

2019 年 10 月 19 日(土)

場所：未定

